



岡崎ホスピスケアを考える会通信

平成 14 年 12 月

18 号

事務局：橋詰 0564-53-3100 小野 0564-24-8518 URL <http://www.sun-inet.or.jp/~nanba/>

9 月の例会報告

＜感想文から＞



テーマ「死を受け入れてどう生きるか⑥」＜ガンになってはじめてわかったこと＞岩崎一二三神父

- ・「ごめんなさい」「ありがとう」「ゆだねます」の三つの言葉がご自分の癌の手術前に出てきた、というお話に大変感銘を受けました。宗教というものにはまだ程遠い身ですが、何事かにぶつかった時、この言葉が出てきたら幸せです。
- ・癌患者の「自分が生きていることで周りに迷惑をかけているのでは」という質問に「一人の人間がそこにいてだけで価値がある」と言われました。この言葉をしっかりとかみしめて生きていきます。
- ・「舟は見えなくなっても舟がなくなったのではない」の言葉で、命は消えてなくなるものではなく続いているものだと思いました。

11 月の例会報

テーマ「告知からの生き方①」講師：岡崎市民病院看護師さん（10名）

＜感想文から＞

- ・10月に緩和ケアを考える会が市民病院でも発足しました。今後、癌患者にとって少しでもよいものとなるよう看護師だけでなく医師、薬局、ケースワーカーと共に考えていきたいと思えます。（看護師）
- ・岡崎市民すべての人たちと岡崎のホスピスを考えていきたいです。皆の思いが分かり合える会になるといいですね。岡崎のシステムをこれから考えていけると思えます。（看護師）
- ・がん告知について今日の話を聞き、私自身やはり告知してもらいたいと思いました。残された人生を皆に感謝し、反省しながら精一杯の微笑を与えながら死を迎えたいと思えます。
- ・5日後に手術を受ける夫も参加して、看護師の皆さんの人間味あふれるお話を聞くことができ本当に良かったと思います。

◆ご案内

例 会		
1月17日（金）10時～12時	勤労福祉会館	「次年度計画の相談」（会員のみ）
2月15日（土）10時～12時	岡崎市民病院	
	「告知からの生き方②」岡崎市民病院 石井正大院長	
3月28日（金）10時～12時	カトリック岡崎教会	「1年を振り返って」（会員の交流）
手縫いの会（毎月第2火曜日）県立愛知病院看護相談室		
1月14日（火）10時～12時	2月18日（火）10時～12時	3月11日（火）10時～12時
つどい（毎月第3水曜日）場所 カトリック岡崎教会（明大寺町）		
1月22日（水）10時～12時半	2月19日（水）10時～12時半	3月19日（水）10時～12時半

◆報告

“つどい”について

患者・家族・遺族の集まりです。

「一度参加したかった」という新しい方、以前参加して「悩みが解決できたので報告したかった」という方などが来てくださいました。“つどい”を続けることの大切さを感じています。

手縫いの会報告

愛知病院・市民病院・国際病院・なのはな苑などにお届けしました。

最近手縫いの品のお届け先が病院だけでなく福祉施設などにも広がってきました。

5周年記念 「風のおくりもの」

10月26日（土）午後4時30分～ 1部：感謝のつどい
2部：永六輔さんを迎えて
場所：勤労福祉会館 参加人数：200名



会場風景

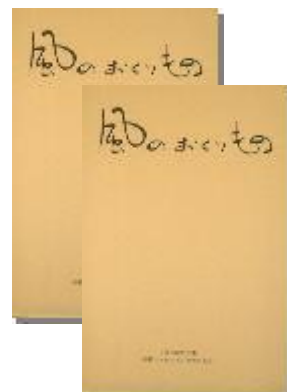
「私にとってのホスピスケア」と題し、今までお世話になった方々と会員に呼びかけ、文集作りを始めたのは、夏前でした。文集に寄せる一人一人の内容、5周年記念の感謝のつどいに出席してくださる講師の方が予想以上に多いという事、そして当日永六輔さんまで来て下さるという思いがけないことに、今ままで皆様から頂いた贈物が自然の風になって人から人に流れている気配を感じました。5周年記念行事のテーマを『風のおくりもの』としました。

1部の「感謝のつどい」は約30人の来賓の方がおいでくださいました。花とお菓子和軽い食事でおもてなし。いつも温かく見守って下さるお言葉に感動し、今までのご指導に改めて感謝の思いが募りました。

2部は永六輔さんの講演です。自宅で奥様を看取られた経験とホスピス運動とはという核心にしっかりと触れながら、独特なセンスとユーモアで心の奥深くに思いを投げかけてくださいました。

200名の会場では小さ過ぎて随分お断りをしてしまいましたことをお詫び致します。

ただ予想外だったのは、1部だけでも参加したいという方々が多かった事です。医療従事者、福祉関係者、患者家族、また男性の方のホスピスへの関心の高さに驚きました。普段例会に出席できない方の声が聞けました。その上、これほどの講師がたった1時間半の為に、海外・県外・市外から集まってくださったことも驚きです。



5周年記念文集
『風のおくりもの』

これからこの方たちとのネットワークができてきたら、
どんなにか暖かな風で満たされるでしょう・・・(橋詰)

11月28日のCBCラジオの“誰かと何処かで”という永さんがパーソナリティーを務めている番組を聞きました。

“お茶ではなく何をお飲みになりますか？って言わなきゃダメよ。ホスピスの勉強をしているんだから・・・僕も黙って飲んでいればいいのに、つつい言っちゃうんだよね。”“日本人は一生懸命してくれたからいただきます、とつついになってしまふ。礼儀とかではなく、ルールで選ぶのではなく、自分が今して欲しい事をしてもらふ事が大切だ。”と。

普段の生活に近い時、つまりリラックスしている時程あれこれ気が付き選択肢が広がり、これこそホスピタリティーの始まりではないかと身近な所から永さんに教えて頂きました。そしてホスピタリティーというのは欲しい事をしてあげる事。つまり求められた事を提供する事で、その為には自分がまずリラックスしなくては何も始まらないような気がしました。(中村)

編集後記 5周年の記念行事は、たくさんの方たちの協力で何とか無事に終わりました。熱い思いで参加して下さった来賓の方たちからも大きな力を頂きました。こうして折角来て頂いた方たちに、互いの交流の場が提供できなかったことを反省しています。この会が今後どんな役割を果たす事が出来るか、来年度に向けての計画を始めました。どうぞご意見をお寄せください。

(難波)

